



創刊に向けて ～三六九庭のご紹介～

蓬萊神仙思想にもとづく 山水画的枯山水庭園

十川日本庭園研究室 十川 洋明

1. 作庭にあたり

今回は創刊にあたり、自邸の庭園である三六九庭（みろくてい）についてご紹介をさせていただきます。三六九庭は中国の**蓬萊神仙思想**にインスパイアされた枯山水庭園となります。蓬萊神仙思想については右記「キーワード欄」をご覧ください。

9坪の空間に世界観を表現

広さは9坪と大きな庭ではございませんが、日本庭園の様々な要素と古式工法を主体とした当研究室の技術をふんだんに折り込んでいます。三六九庭は辰巳（南東）の方角に三六九という数の石組みで構成することで、蓬萊神仙の世界観を山水画的枯山水で具現化したもので、下記の三島（三神山）で構成されています。



管理・整備が容易な庭作り

私の考える日本庭園は景観だけでなく日常のお手入れのし易さも重要視しております。

日本庭園は作っておしまいではなく、四季折々の変化や年を重ねるごとに、その映ろいは変化を伴い、様々な表情を醸し出します。そのため、その魅力を最大限に引き出すためには、常に庭をベストな状態に維持しなければなりません。よって、その日常整備については手間がかからないことが第一条件となる訳です。

また、以上のことに加えて、日本庭園が持つ「心地よさ」を体感できる庭園として、本庭のデザイン計画を策定いたしました。

庭園デザイン計画

●施工後の管理内容・方法を重視

地元のコケを生やすことで草が生えづらく、風で落ち葉などが、すべて外に出る構造とする

●変化をもたせる

樹木や花を中心とした季節の変化だけでなく、竹垣のデザインを頻繁に変えることで庭の雰囲気に変化をもたせる

●心地よさを追求する

水琴窟を設け、音の変化を楽しみます。水琴窟はカメ内の反響音だけでなく、外部への排水音で小川の様な「せせらぎ」を感じさせる構造とする



ニュースレター

和創技継

十川日本庭園研究室

創刊特別号



キーワード注釈

ほうらいしんせんしそう
蓬萊神仙思想



ほうらいさんまきえけさばこ
蓬萊山蔦絵装袋箱
東京国立博物館所蔵

「蓬萊神仙」とは、古く紀元前の中国、燕（えん）、齊（せい）地方で起こった土着信仰で、東方海上に蓬萊神仙世界があるとし、蓬萊（ほうらい）、方丈（ほうじょう）、瀛州（えいじゅう）の三島などが想定され、これらの島は神仙島ともいわれ、そこには宝物や不老不死の仙薬が蔵されていると説かれました。

秦の始皇帝などは多くの方士に仙薬を求めさせました。一説に、この蓬萊神仙世界は、日本であるとも言われ、以後中国においても日本においても、庭作りのテーマとして広く用いられています。

蓬萊山という山があるという伝説ですが、蓬萊山は亀の様な鼈（ガウ）という生き物の上に乗っかっている山で、鼈は蓬萊山を背中に乗せて海を周遊しているとのこと。

この蓬萊山の正体は蜃気楼だったという説もあります。蜃気楼がユラユラと揺れる事で、洞窟が山の中にあるように見えた様です。

日本庭園ではこれらをモチーフにした大きな石が配備される事が多く、そして、この蓬萊山の左右に鶴島と亀島を近接して配置されるのが一般的です。

2. 三神山の石組み

蓬萊島

中央は十二石組の蓬萊島。平面地割りを抽象化した亀にかたどり、左手に斜立石(しゃりっせき)の亀頭石(きとうせき)を配する峻険な石組みです。



雪化粧をした蓬萊島

古式工法の石組み

石どうしを組み合わせるためには、カマセ石というものを使用します。写真は土中の構造。石は組むことで強度を上げますので、**基本的に深く埋めないことが肝要**で、土中には15センチも埋まっています。これは石の造形を、狙った意匠で見せることにもつながっています。



中央付近がカマセ石



方丈島全景

瀛州島

瀛州島は、蹲踞形式に全て平天石(へいてんせき)で組み、豪華な前石(まえいし)を台石(だいし)で浮かせ、海の下に埋設した**水琴窟は算(かけひ)からの水量によって音の変化が楽しめます。**



瀛州島全景

方丈島

方丈島は、室町様式の低く据えた石橋と橋挟石(はしばさみいし)、手前は出舟形式の舟石(ふないし)、更に手前は遠近法を使った岩島(がんとう)です。

キーワード注釈

すいきんくつ 水琴窟



三六九庭の水琴窟(中央)

蹲踞(つくばい)の排水装置の一つで、庭園における音響装置の役割をもつもの。排水穴の下に瓶(かめ)を伏せる形で埋め込み、吸い込み穴から滴り落ちた水が、伏せ瓶に反響して立てる音色を楽しむ。その音色を、琴の音に擬して命名。
水琴窟の構造は様々で、どの工法が良いとは一概に言えませんが、過去に十か所ほど作った中で私が一番良いと思う反響音を追求めました。昔は造園学上、最高峰の技術と言われていました。下記に製作上のポイントと特色をいくつか挙げます。

- 異なる瓶を二つ入れます。
- 手水鉢を用いないので、水面上に水の落ちる音がしません。また、ゴロタ石の上で水路(みずみち)が分かれることで音の変化が楽しめます。
- コンクリートの駐車場に配管を通すことで、梅雨時期の静かな時は30m先でも聞こえます。
- 太い配管を横に通すことで、管理の上でも泥が溜まらずに清掃が容易です。

3. 植栽・竹垣

植栽

赤松の天目松(てんもくしょう)を三本とし、地面は自宅や近所で集めたコケ張り六山と水を表現した白川砂です。



植栽は天目松を三本

竹垣

南側九面と東側六面の計十五に分けた創作的な文字垣(もじがき)で、施工者のサトル・ヒロシ・ヤエモンの名が隠れています。また、玉縁の笠竹(かさだけ)や杉皮の遊びを入れています。



創作垣



文字垣

製作者「サトル」の文字が隠れています

北側は創作垣。杉皮と割竹を市松に張り付け、更に杉皮上に竹穂を化粧に止めた垣根で、桂穂垣風の竹穂の裏側には、枝を交差させ隠れたアズビを入れました。

西側の袖垣は三枚、三手越しの網代垣。押縁はスワマと削ぎ落とします。

おわりに

この庭園の特徴は、風を回し隅を開けることで、ゴミが溜まらず夏は天然の涼風が吹き込みます。蹲踞形式は手水鉢を用いず、ヤブ蚊対策となります。この庭が多くの来客者の鑑賞となれば、幸いです。

各種メディアより情報発信中。アクセスはQRコードから



Website



Instagram



facebook



twitter